

鹿野菅笠工房



集落の小さな拠点
伝統交流文化を紡ぐ鹿野菅笠



一階玄関
土間空間の上部を吹き抜けにし、伝統的な入母屋造の屋根構造を見せる吹き抜けの高さを生かし、工芸品の展示空間としても活用する。

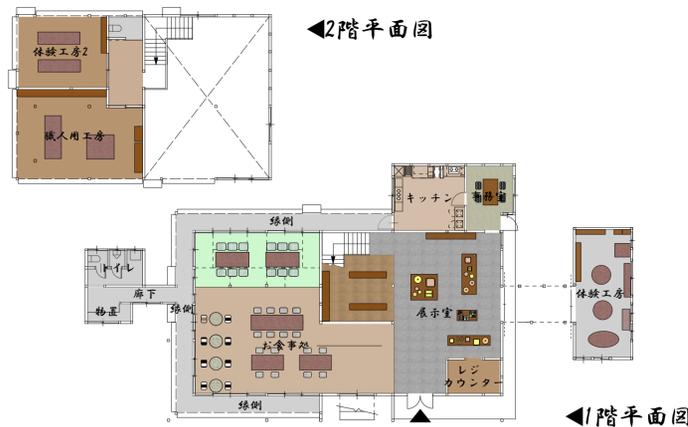
壹 設計趣旨

「鹿野菅笠体験工房と菅笠喫茶店」

鹿野城下町として古くより栄えた鹿野町。しかし、本物件が位置する中園地区は、高齢化が進んでおり交流や生活サービスの拠点が無い。

「～伝統・交流・生活を紡ぐ鹿野菅笠～」

をコンセプトにこの地域の伝統工芸品「鹿野菅笠」の技術を活かした交流・生活・町おこしの拠点を提案する。



一階 ✂

- お食事処
伝統工芸品「鹿野菅笠」に乗せた御膳・スイーツなどを提供
- 工芸品展示空間・物産館
工芸品や工芸品を加工した雑貨の展示・販売をはじめ、集落付近で取れた野菜や鳥取のお土産、日用品を販売する。
- 体験工房
離れを鹿野菅笠づくりを体験するための工房に。

二階 🌸

- 工房・体験工房
鹿野菅笠づくりを体験するためのもう1つの体験工房と職人用工房の2つのゾーンにわかれる。

貳 地域に果たす役割

「集落の小さな拠点」

「集落内外からの人材の受け入れ拠点」
お食事処や工房は雇用の場としての価値も持つ地域内外から新たな人材を受け入れることで、集落の発展・交流のきっかけとする。

「集落の生活サービス拠点」

集落から近くのスーパーまで車で約10分、交通機関はバスのみと毎日買い物に行くのも大変…お食事処は地域の人も利用でき、直売所でも日用品や野菜も販売しており、集落住民の生活の手助けをする。

「集落の交流拠点」

お食事処や直売所には観光客だけでなく、地域の高齢者も多く利用する。地域の高齢者の交流の場として活用されるだけでなく、地域内外の世代間交流の場としての活用も期待できる。



お食事処
壁を取り払い、フラットで解放的なお食事処に。



縁側
お食事処は自由に入出入り、交流の場として住民が立ち寄ることができる。



体験工房
菅笠づくりの体験が楽しめる工房